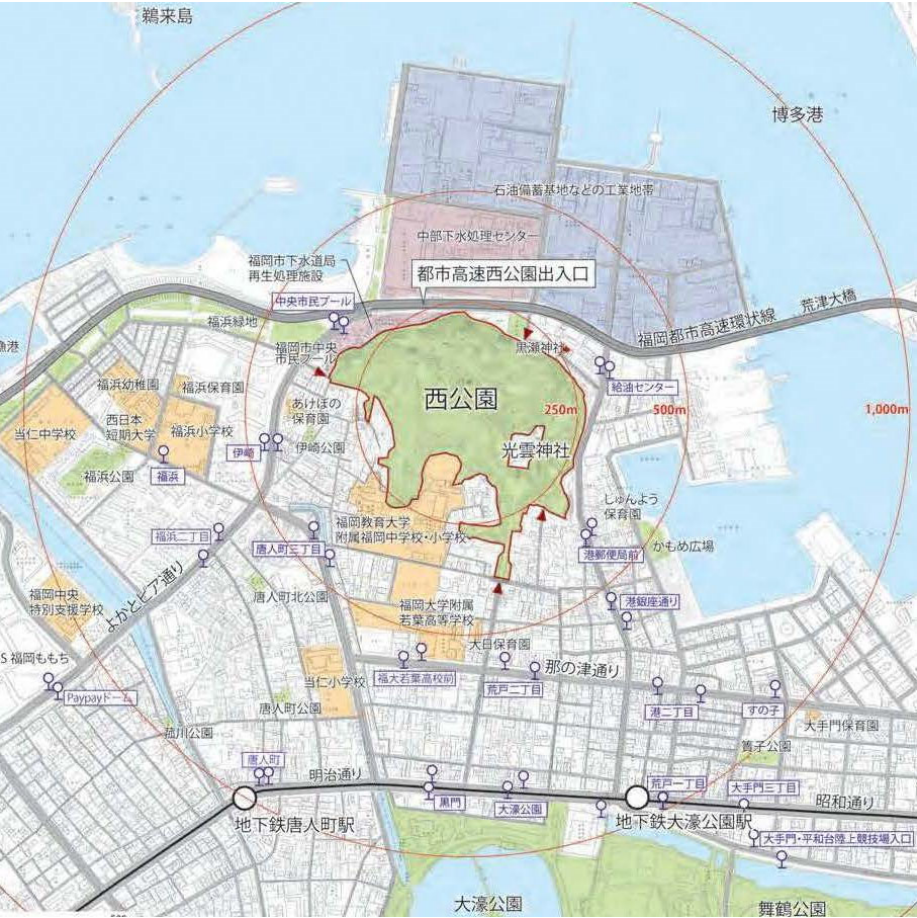


福岡県宮西公園ドッグラン





「西公園再整備基本計画」より抜粋

日本さくら名所100選に入る福岡県営西公園では、園内全体の魅力アップと利用者の増加を目指し、2021年9月に「西公園再整備基本計画」が策定された。また福岡県は近年、医学と獣医学の連携によって世界的に広まりつつある「ワンヘルス（One Health）」の理念に取り組む先進県としても知られる。

第2章 現状

1. 公園の概要

- ・所在地：福岡市中央区西公園
- ・面積：17ha
- ・公園種別：都市公園（風致公園）
- ・開園年数：1881（明治14）年
- ・都市計画決定年月：1956（昭和31）年10月
- ・風致地区指定年月：1935（昭和10）年2月
- ・土地所有：17haのうち、県有地6.3ha、国有地10.7ha
（国から無償貸付）※光雲神社は公園区域外



ワンヘルスとは、自然破壊や動物由来感染症リスクの抑制を図るため、人と動物の健康、環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的に守っていくという考え方である。

こうした背景を踏まえ、福岡県は前述した基本計画に基づく再整備事業の一環として、西公園内にワンヘルスの理念に基づくドッグランを整備し、2023年10月に供用を開始した。



ドッグラン
および周辺平面図

整備前の対象地



整備前の対象地の様子。西公園の東端に位置し、窪地状のため上方を通る周回園路（歩・車道）から見下ろせる位置にあった。しかし、周囲の木々が繁茂し、日中から薄暗い場所となっており、また園路からのアクセスも悪かったことから、立ち入って休憩する利用者などはほぼ皆無であった。

検討過程



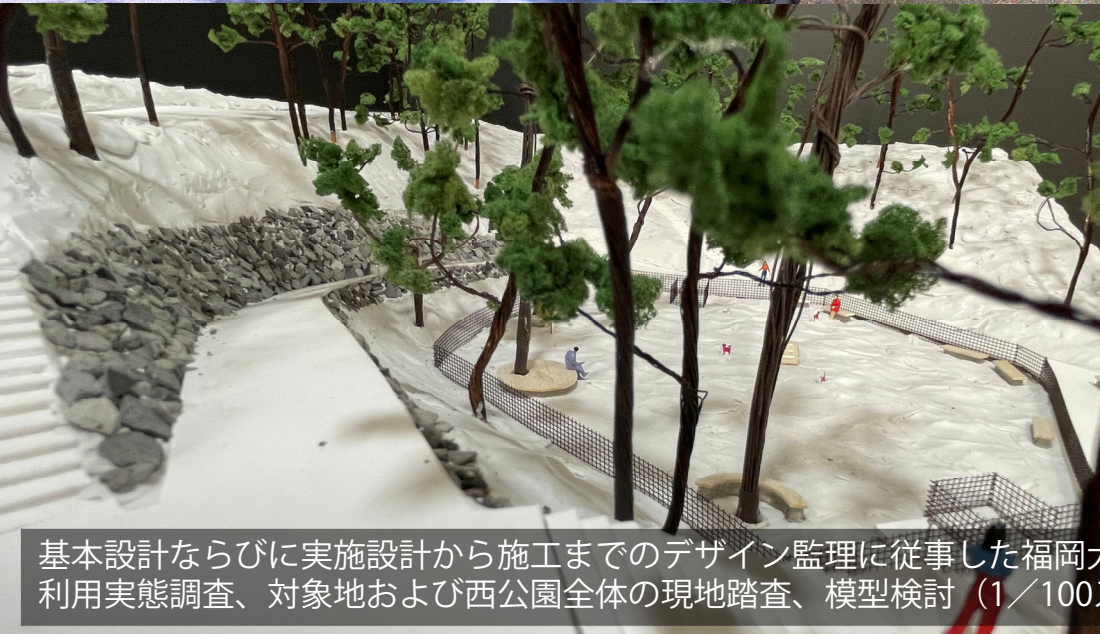
既存ドッグランでのヒアリング



現地踏査（再整備前の周回園路）



対象地でのモックアップ検討



スタディ模型

基本設計ならびに実施設計から施工までのデザイン監理に従事した福岡大学景観まちづくり研究室は、福岡市内の既存ドッグランでのヒアリング・利用実態調査、対象地および西公園全体の現地踏査、模型検討（1／100スケール）、関係組織間の調整等を重ねデザインの提案と確認を進めた。

上方の園路から円滑にアクセスできるスロープ兼管理用道路をつくるため、窪地斜面の既存高木を可能な限り残しながら整地。経年によって風合いが増す自然石（再整備される園路の歩道舗装材と同じ桜御影石）を用いた練り積み擁壁を設置した。スロープは景観に配慮し、脱色アスファルト舗装とし、透過性を考慮した転落防止柵を付置して施工した。



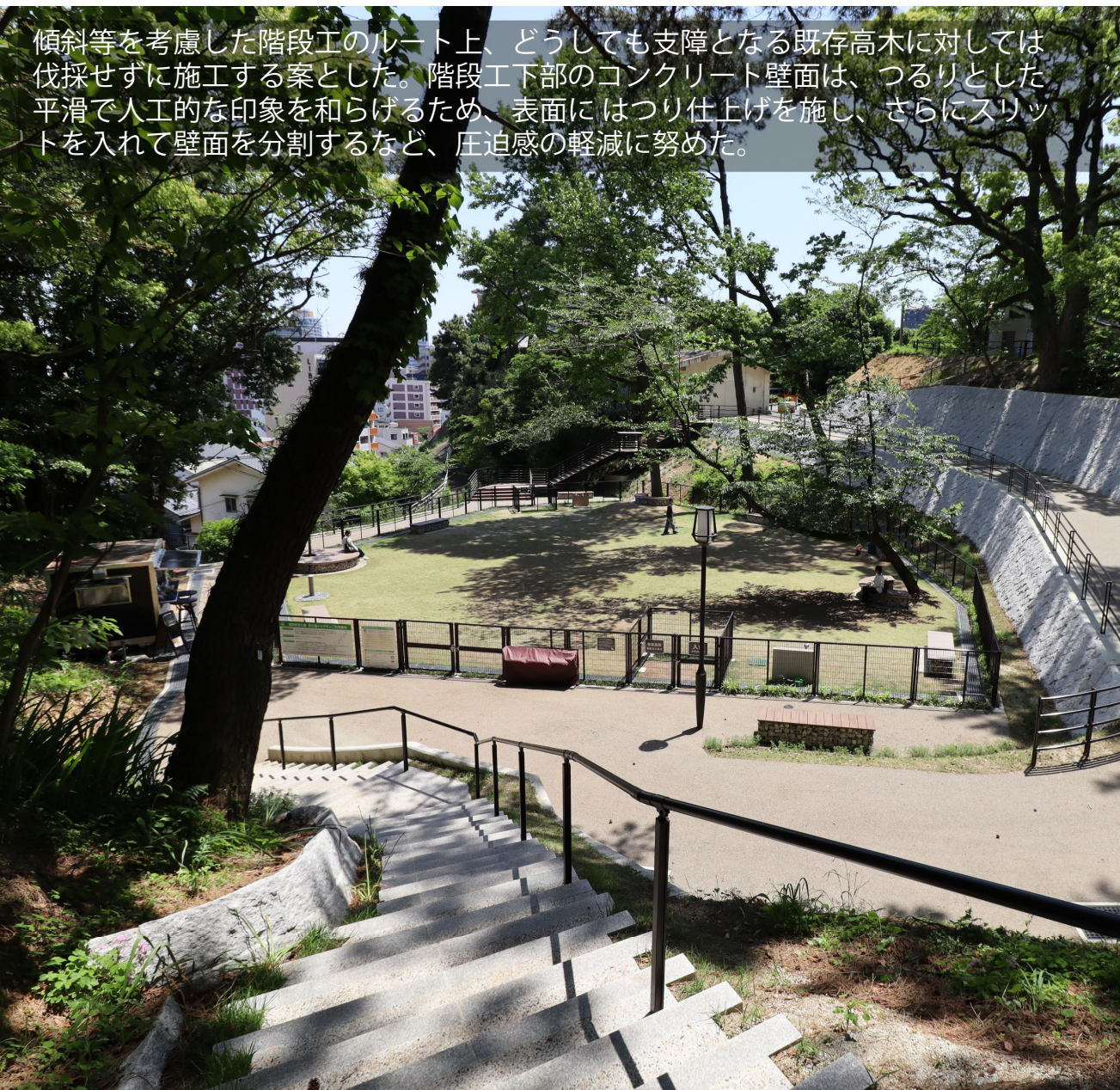


スロープ上部からドッグラン南側に直接アクセスできる階段工（鉄骨造）を設置。ウッドデッキの踊り場等も設置し、ドッグランを俯瞰する視点場としても機能することを目指した。



園路からドッグラン北側に直接アクセスできるよう、斜面地に自然石を組み込んだ階段工を設置。ドッグラン全体を眺望できる良好な視点場としても機能することを企図した。

傾斜等を考慮した階段工のルート上、どうしても支障となる既存高木に対しては伐採せずに施工する案とした。階段工下部のコンクリート壁面は、つるりとした平滑で人工的な印象を和らげるため、表面にはつり仕上げを施し、さらにスリットを入れて壁面を分割するなど、圧迫感の軽減に努めた。



周囲にあった既存の高木、桜木を残し、緑陰の形成される随所に飼い主が休めるベンチを配置した。ベンチは長方形だけでなく、円台や半円形といった複数のタイプを用意し、利用者の用途にあわせて選択できるようにした。また下部は自然石を入れ込んだじゃかご型とし、自然的な雰囲気に加え、犬のおしっこ等による汚れが目立ちにくいデザインとした。







再整備された周回園路



外灯製作における工場での確認協議

外灯は周回園路と公園南側の光雲神社参道にも連続して設置（参道は2024年秋頃施工予定）。和の雰囲気も意識しつつ、桜の名所であることから「花の蕾」をモチーフに、西公園オリジナルのデザインとなっている。また西公園は海に面しており、維持管理面での耐塩害性の考慮から、外灯の材質は铸铁製とし、ポール・照明メーカーとの綿密な協議、調整を経て製作がなされた。



現在の参道の様子

再整備案のフォトモンタージュ



公園南側
光雲神社参道入口



近年の酷暑では日中の強い日差しによって日暮れ以降もなかなか路面温度が下がらず、散歩等は犬の足裏等への負担を考慮し、夜間に土で覆われた場所でのニーズが高い。本ドッグランは、外灯やベンチ座面下にLED照明を仕込み、夜間の利用が可能な施設となっている。



市街地に隣接しながらも、豊かな自然に包まれた西公園ドッグランは自由に走り回る犬は勿論、多くの飼い主が交流を深め、犬と人の心の健康づくりに貢献している。従来のドッグランはフェンスに囲まれた平地に簡易ベンチという施設が多く、ワンヘルスの理念とともに土木デザインの投入によって、犬と人の快適な共存空間が創り出されたことは極めて希少な事例といえる。

